

中国はSU-35を複製するか？

漢和防務評論 20180806(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

ロシアがしぶしぶ中国に輸出したSU-35を例によって複製されるのではないかと、ロシア航空工業界は心配しています。中国空軍が特に欲しがっていた機体であり、輸出する際は特に知財権を厳格に守ることを条件に協定に署名した、ということですが、そもそも国際常識が通用しない国なので、ロシアは疑い始めているようです。プーチンの強い指示で輸出が認められた機体なので、複製されたら大問題になります。

KDR 香港特電：戦闘爆撃機 JH-7A が生産停止になるという話がある。JH-7B は未だ生産されていない。その理由は海空軍がまもなく J-16 を受領するからである。過去 1、2 年の衛星写真を分析すると、2017 年以降、JH-7A の生産が大幅に減速している。2017 年 11 月、西安の閻良基地において 5 機の JH-7A が出現した。この機体は 2018 年 2 月まで滞留していた。4 月に 1 機増え全部で 6 機となった。そのうち 3 機は未塗装であった。2016 年には 5 機出現したのみであり、2015 年には 12 機出現していた。これが生産のピークであったのだろう。6 機の JH-7A は、過去数年間に事故で失われた機数を補充するためであったのだろうか？ JH-7A は 1980 年代に設計された戦闘爆撃機で、過去には聯合軍事演習や航空ショーでしばしば事故を起こした。実際の作戦で出撃回数が増えれば、事故がもっと増えるのではないか？

そこで関心があるのは、一旦生産が停止された場合、西安航空機会社が生産するのは Y-20 輸送機と HK-6 だけになることだ。しかしこの 2 種類の航空機は、軍用機の生産ラインを維持するには十分である。特に Y-20 に対する需要は多い。JH-7A の低速生産は、改修型が未だ定型生産に入っていないことを示している。中国は、今後、戦闘爆撃機の再設計をすることはないであろう。一つの時代が終わろうとしている。

これと同時に、閻良には 2 機の未塗装のスホーイ型戦闘機が出現した。明らかに試験飛行中である。モスクワの航空工業界は、この 2 機の” それらしい” 戦闘機に極めて大きな関心を持っていた。” SU-35 のクローン戦闘機” なのかどうか？ と。多くの人が討論中に疑念を抱いていた。ロシア人はすでに相当神経質になっている。

KDR は、そんなに早く SU-35 のクローン機が造れるわけではない、と思っている。中国が SU-35 の運用を開始してからわずか 1 年と少々である。中国人は、輸出協定に署名した際、ロシアの知財権を尊重することを承諾した。しかしこの種の承諾とは、貴方が知っている通りである。これは、キリスト教文化と中国人の” 聡明” の定義の差異に関わる問題である。ここではこれ以上詮索しない。

KDR は早い時期に、中国が **117S** エンジンを改良型の **J-11** 及び **J-16** に搭載し試験することが可能である、と考えていた。

あまり鮮明でない衛星写真を見ると、閩良に出現したスホーイ型戦闘機は、**J-16** 複座型の改修機の可能性がある、と **KDR** は考え始めている。例えば、電子戦型、懸架装置の改修型、である。そうであれば、航空工学的には、エアロダイナミックスの変更であり、再度試験飛行が求められる。

以上